

○修学旅行（ハワイ）の様子と生徒の感想



（左上）戦艦ミズーリを見学しました。



（左下、右）
ハワイ大学の学生との交流（Project Paradise）の様子。
翌日は学生と一緒に散策をしました。

☆参加した生徒の感想

2年 T.Tさん

戦艦ミズーリを初めて見て、その大きさに圧倒されました。第二次世界大戦の頃から使われていたはずなのにとても綺麗に残っていて、戦闘艦の姿が特に印象に残りました。外見だけでなく内部の厨房や寝室までもしっかりと残っていて本当に驚きました。

また、日本軍の零戦が戦艦ミズーリの側面に特攻した際にできた傷跡を見学し、当時のことを現地のガイドから聞きました。零戦のパイロットの遺体を船上で発見した米軍兵士は、旧日本国旗で彼の体を包み海に流したそうです。僕は、交戦国である日本や日本兵たちが適当に扱われているのだろうと想像していたため、「なぜなのか」疑問に思いました。当時の戦艦ミズーリの長官の「死んだら敵も味方もない、この方たちも被害者だ」という考えのもと丁寧に弔ってくれたことを知って感動しました。さらに長い年月をかけて、この戦争で亡くなった方の身元を特定しようとした話を聞き大変驚きました。

戦艦ミズーリの艦上では、降伏文書の調印式も行われたそうです。多くの国の代表が集まり調印式を行うため、何度も予行を繰り返して開始時間などもきっちりと決められていたそうです。自国への攻撃を指示していたであろう他国の人のことを思った配慮が素晴らしいなと思い、印象に残っています。

2年 A.Yさん

私は今までに海外旅行に行ったことがなく、ハワイがどんな場所かテレビで見たことがある程度です。私が思い描いていたのは「街の至る所で英語が聞こえてくる」というイメージでした。しかし実際は私のイメージとは異なり、想像以上に日本語が使えるということが分かりました。「海外＝英語」と考えていた私は、店員さんやホテルスタッフの方が日本語で話しかけてくれて、とても驚きました。

また、3日目の午後の自由行動では自分から現地の人に話しかけ、やりとりをすることができました。これまでに習ってきた英語が通用したことで、自分の英語力に自信がつけました。



(上) ハレイワ弘照寺を参拝しました。

(下) アラモアナビーチでサンセットを見ました。

2年 U.Mさん

今から150年前、ハワイ王国のカラカウア王が労働者として移民を受け入れる方針を策定、当時の日本の植民地政策と思惑が合致しハワイへの日本人の移住が開始されました。1893年ハワイ王国がアメリカ合衆国に併合されて以降は、植民地政策にもアメリカの法律が適用され、移民は奴隷と同様に見なされるようになりました。

その頃は一日約70セント程度の安い給料で、鞭を打たれながら仕事をするという過酷な労働環境だったそうです。後に入植者によるストライキによって1日1ドルの給料になったそうです。

私は、夏休みの課題で読んだ論文に「ハワイの入植者の労働環境は、自殺者が出るほどひどいものだった」とあったことを思い出しました。また、カラカウア王が入植者達を歓迎した時代から今日まで、日本とハワイの交流が150年以上も続いているのはすごいことだと思いました。

2年 T.Yさん

ハワイのビーチを目にして、私はその綺麗さに驚いた。むかし沖縄の海を見たことがあるから、日本にも綺麗な海があることは知っている。しかし、私が住む関東にはゴミが捨てられている海岸があるし、日本で見られる海が全て綺麗だと感じることは少なかった。そのため、アラモアナビーチやワイキキビーチを間近で見たとき「すごい」と思った。底に沈む砂や貝などが見えるくらいに海水は透き通っていたし、砂がさらさらしていたことや、ビーチから少し距離があっても潮の匂いがしたことが印象的だった。また、私が見た限りゴミが一つも落ちていなかったことも、私がハワイのビーチで感じた魅力の一つだ。私はこの修学旅行でハワイに触れて、住民の多様な人柄や意識が環境に出ていると素直に感じた。その結果が、この海や自然環境を豊かにしているとも思った。